

令和7年度 大学院医学院修士・博士課程入学式告辞

北海道大学大学院医学院への進学、おめでとうございます。医学院教職員一同を代表してお祝い申し上げます。希望に胸を膨らませ、喜びに目を輝かせている皆さんをお迎えできることをたいへん嬉しく思います。

北海道大学大学院医学院の前身の医学研究科は1955年に設置されました。2000年には大学院重点化が行われ、学部を中心とした従来の教育研究組織から、大学院を中心とした教育研究体制へと移行しました。2017年には医学研究科は、教育と研究が一体の「研究科」を、大学院生が所属する「学院」と教員が所属する「研究院」に分離し、教員は他の分野の大学院生を指導できる体制となり、異分野を有機的に融合したグローバルな大学院教育の展開を可能にしました。

本院博士課程は、1専攻、3コース制で、医学研究者・研究医を育成する「基盤医学コース」、社会医学及び公衆衛生行政の分野で活躍する人材を育成する「社会医学コース」、高度な臨床研究を遂行する人材を育成する「臨床医学コース」があります。また2009年より医学科出身者を対象として「MD-PhDコース」が導入されました。医学部6年時から大学院授業科目を履修することができます。また、2013年度からは新たに「CLARCプログラム」が開始されました。臨床研修2年目に大学院に進学し、臨床研修と同時に大学院での学修をスタートさせるプログラムです。

本院修士課程は、2002年に設置されました。修士課程は、独創性と複合的な視点を兼ね備えた研究者や高度専門職業人を養成することを目的としています。2017年度からは、新たに「公衆衛生学コース」が設置され、公衆衛生修士号を取得できる教育システムが導入されました。さらに、医療職に従事し、実務経験を有した方々に対して1年で修了できる1年コースも設定されています。

医学院の理念として、「①世界をリードする先進的医学研究の推進、②高い倫理観と豊かな人間性を有する医学研究者・医療人の育成、そして、③人類の健康と福祉への貢献」を掲げており、高い倫理観、高度な専門的知識、研究や教育の実践能力を備えた人材の養成を教育目標としています。

今日の医学・医療の進歩は、過去の研究の成果に基づきます。アレクサンダー・フレミング博士のペニシリンの発見、ケーラー・ミルシュタイン博士のモノクローナル抗体の開発、本庶佑博士の免疫チェックポイント阻害剤の発見など、ノーベル賞の歴史がまさに医学の研究から医療への歴史です。本学でも2011年に鈴木章先生が、2021年にはベンジャミン

リスト先生がノーベル賞を受賞しています。大きな成果も小さな一歩から始まります。大学院生の将来に向かう継続的な研究なくして、明日の医学・医療の進歩はありえません。

しかしながら、最近の我が国の大学では大学院への進学者が減少しており、医学・医療の未来を担う若手研究者の減少という憂慮すべき事態が生じております。このような状況のもと、皆さんが医学院に進学する道を選択したことに対し、心より敬意を表したいと思えます。

現在、サイエンスの解析技術、AI・ITCの技術の進歩は目覚ましく医学研究・医療の中にも急速に導入されています。臨床の最前線でも科学技術の進歩にともない診断法・治療薬・治療法が急速に変化しています。大学院生の皆さんは、目先の先端技術・AI技法などに惑わされることなく、新しい技術の原理を理解できるような基礎を学び、大学院修了後にはそれらを使いこなし、未来を見通せるような研究者・医師になれるような素地を自らの中に培って下さい。アイザックニュートンの言葉、「stands on the shoulder of the giant」を贈ります。「巨人の肩の上に立って未来を見渡す」という意味です、巨人とは自らの中に積み重ねてきた学問のことです。皆さんも学問を積み重ねて、その上に立ちさらなる高みを目指してください。

基礎研究者を目指す方、研究ができる臨床医を目指す方、研究力を有した高度専門職業人を目指している方にとっても、本学において最先端の研究に触れ、自らの研究を遂行することは、一生の財産になると思えます。

皆さんには、医学院在学中に、研究立案遂行能力を身につけるのみならず、激変する社会変化に対応する資質と能力を高め、挑戦する気持ちを抱いてください。これから最先端の医学研究を学ぶ皆さんには、優れた科学者のひとりとして、崇高な倫理観のもとに新たな知の創造や社会の諸課題に主体的に取り組み、社会の期待にこたえていただきたいと思えます。最終的には、大きな夢と高い理想を有し、立派な研究成果をあげることで学位を取得し、本学を巣立つことを祈念します。

令和7年4月1日

北海道大学大学院医学院長 田中 伸哉